

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	幕張新都心若葉住宅地区計画(B-4)	階数	地上38F
建設地	千葉県千葉市美浜区若葉3丁目1-	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	3,115 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2022年12月12日
敷地面積	14,212 m ²	作成者	株式会社 熊谷組一級建築士事務所
建築面積	3,344 m ²	確認日	2022年12月12日
延床面積	75,200 m ²	確認者	株式会社 熊谷組一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 当計画は幕張新都心若葉住宅地区という全体で8街区におよぶ計画のひとつである。単なる1敷地の計画でなく、他の7街区との繋がりや幕張ベイタウンとの繋がりに配慮した複合的な街づくりを目指した計画としている。景観形成、環境配慮、安心して暮らせる防犯計画等全体的な街づくりを行い、永く住み続けられる街、幕張地区全体のさらなる活性化に繋がる街を目指した計画としている。		その他 若葉地区全体の景観づくりや人の交流を作り出す施設配置など、若葉地区全体の活性化を図る計画としている。
Q1 室内環境 ボイド型の住棟形状としており、住戸の採光・通風に配慮した計画としている。外皮性能として、住居部分日本住宅性能表示5-1断熱性能等級等級5を満たす計画とし省エネルギーで快適な室内環境を整えるよう努めた。	Q2 サービス性能 中間免震構造を採用。免震層を配管ピットとして利用することにより、維持管理しやすい計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 幕張新都心若葉住宅地区全体の繋がりを目指し、一般の方が自由に利用できるオープンな外構計画としている。
LR1 エネルギー 外皮性能に関しては、住宅性能評価の5-1断熱等温熱環境の5等級に適合する性能としている。 高効率給湯器や節水型トイレ・水栓を採用するなど、エネルギー消費に配慮した計画としている。	LR2 資源・マテリアル 床土上材の長尺塩ビシートや外壁タイルにリサイクル材料を採用。 また、建材や接着剤、冷媒材等には有害物質を含まないものを採用し、環境に配慮した計画としている。	LR3 敷地外環境 街区内の建物は板状の中高層建築物ではなく、超高層、低層と分節した配置計画とすることにより、圧迫感軽減、風の通り道の確保等周辺環境に配慮した計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	幕張新都心若葉住宅地区計画(B-4)	階数	地上38F
建設地	千葉県千葉市美浜区若葉3丁目1-	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	3,115 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2022年12月12日
敷地面積	14,212 m ²	作成者	株式会社 熊谷組一級建築士事務所
建築面積	3,344 m ²	確認日	2022年12月12日
延床面積	75,200 m ²	確認者	株式会社 熊谷組一級建築士事務所

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 62%
③上記+②以外の 62%
④上記+ 62%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.1
4(教育)	1.7
5(ジェンダー)	1.3
6(水・衛生)	1.8
7(エネルギー)	2.2
8(経済・雇用)	2.0
9(イノベーション)	1.8
11(都市)	2.0
12(生産・消費)	2.3
13(気候変動)	2.1
15(陸上資源)	1.4
17(実施手段)	2.3

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.8

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 当計画は幕張新都心若葉住宅地区という全体で8街区におよぶ計画のひとつである。単なる1敷地の計画でなく、他の7街区との繋がりが幕張ベイタウンとの繋がりに配慮した複合的な街づくりを目指した計画としている。景観形成、環境配慮、安心して暮らせる防犯計画等全体的な街づくりを行い、永く住み続けられる街、幕張地区全体のさらなる活性化に繋がる街を目指した計画としている。		その他 若葉地区全体の景観づくりや人の交流を作り出す施設配置など、若葉地区全体の活性化を図る計画としている。
Q1 室内環境 ポイド型の住棟形状としており、住戸の採光・通風に配慮した計画としている。外皮性能として、住居部分日本住宅性能表示5-1断熱性能等級等級5を満たす計画とし省エネルギーで快適な室内環境を整えるよう努めた。	Q2 サービス性能 中間免震構造を採用。免震層を配管ピットとして利用することにより、維持管理しやすい計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 幕張新都心若葉住宅地区全体の繋がりを目指し、一般の方が自由に利用できるオープンな外構計画としている。
LR1 エネルギー 外皮性能に関しては、住宅性能評価の5-1断熱等温熱環境の5等級に適合する性能としている。 高効率給湯器や節水型トイレ・水栓を採用するなど、エネルギー消費に配慮した計画としている。	LR2 資源・マテリアル 床仕上材の長尺塩ビシートや外壁タイルにリサイクル材料を採用。 また、建材や接着剤、冷媒材等には有害物質を含まないものを採用し、環境に配慮した計画としている。	LR3 敷地外環境 街区内の建物は板状の中高層建築物ではなく、超高層、低層と分節した配置計画とすることにより、圧迫感軽減、風の通り道の確保等周辺環境に配慮した計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される